

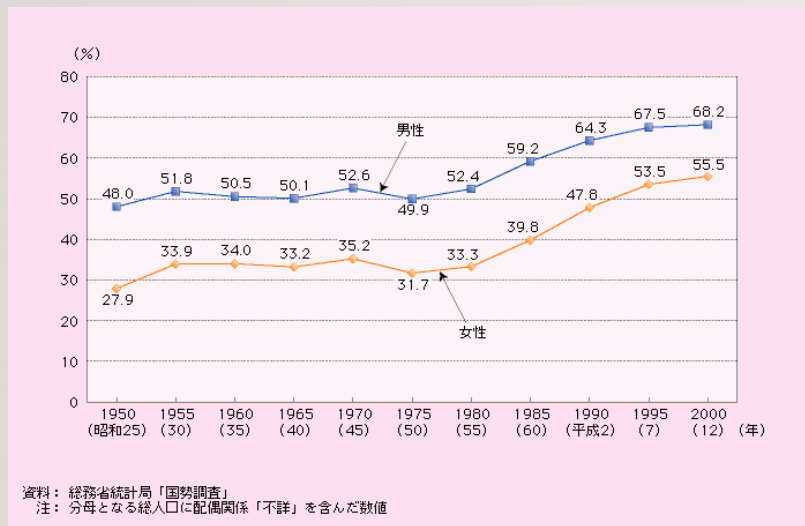
結婚とは？

～行動経済学的アプローチ～

中央大学 古川ゼミ

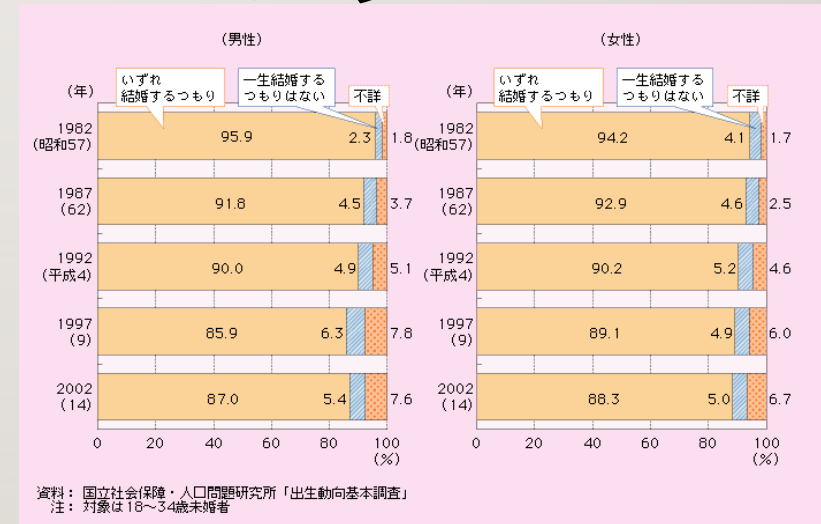
結婚に対する価値観は変化しているのか

未婚化は進んでいる



未婚率の推移 (20歳～34歳)

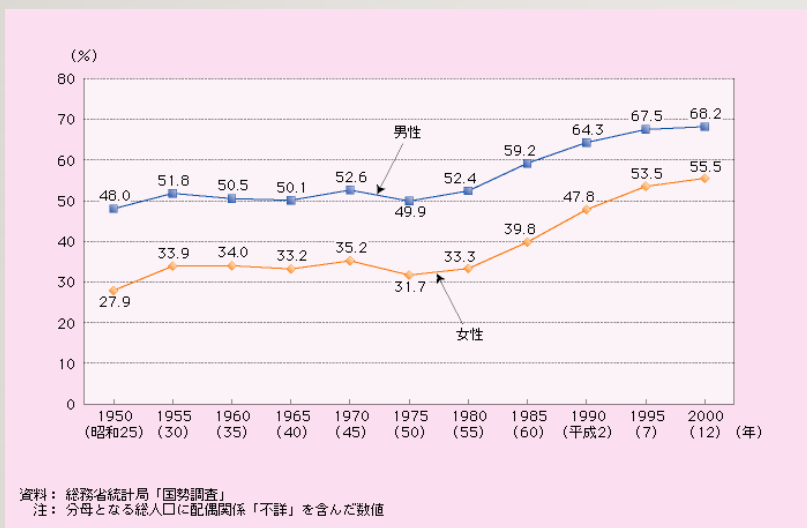
いずれ結婚したいと考えている人は多くいる



独身者の結婚意思

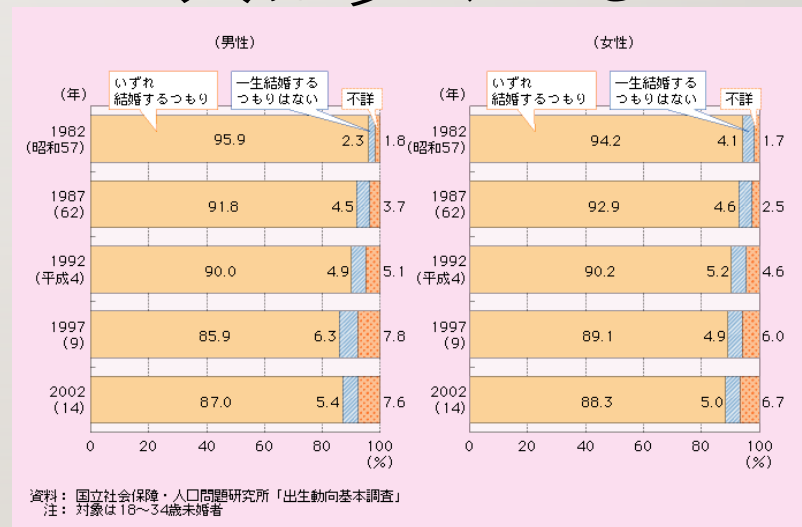
結婚に対する価値観は変化しているのか

未婚化は進んでいる



未婚率の推移 (20歳～34歳)

いずれ結婚したいと考えている人は多くいる



独身者の結婚意思

矛盾？

問題提起

- 未婚化は晩婚化が進み過ぎたことが原因
→ 晩婚化は行動経済学的心理による
ものではないか？

研究目標

- 行動経済学的アプローチによって、少子化の原因である未婚・晩婚化を解決する方法を模索する。

仮説：行動経済学で説明ができるのでは

- 現状維持バイアス

未来の喜びよりも、目の前にある喜びを優先してしまう心理

→現在の幸福度が高い人は、結婚という変化を求めない

仮説：行動経済学で説明ができるのでは

- 時間選考率

投資家が現在の消費を諦め、将来のために貯蓄するようになる金利水準

→時間選好率が高い（我慢強い）人は、結婚を遠い将来に回す

仮説：行動経済学で説明ができるのでは

- 損失回避性

利益による満足より損失による苦痛の方が大きいと考える心理

→損失を回避する傾向が強い人は、結婚による損失を大きく捉える

仮説：行動経済学で説明ができるのでは

①現在バイアスが大きい

②時間選考率が高い

③損失回避性が高い

これらに当てはまる人が多いため、

未婚化・晩婚化に繋がっている可能性がある

検証方法：アンケート

- 回答人数 82人

- 男女比

男 47.6% 女 48.8% 無回答 3.7%

- 質問内容

①幸福度について ②時間選考率について

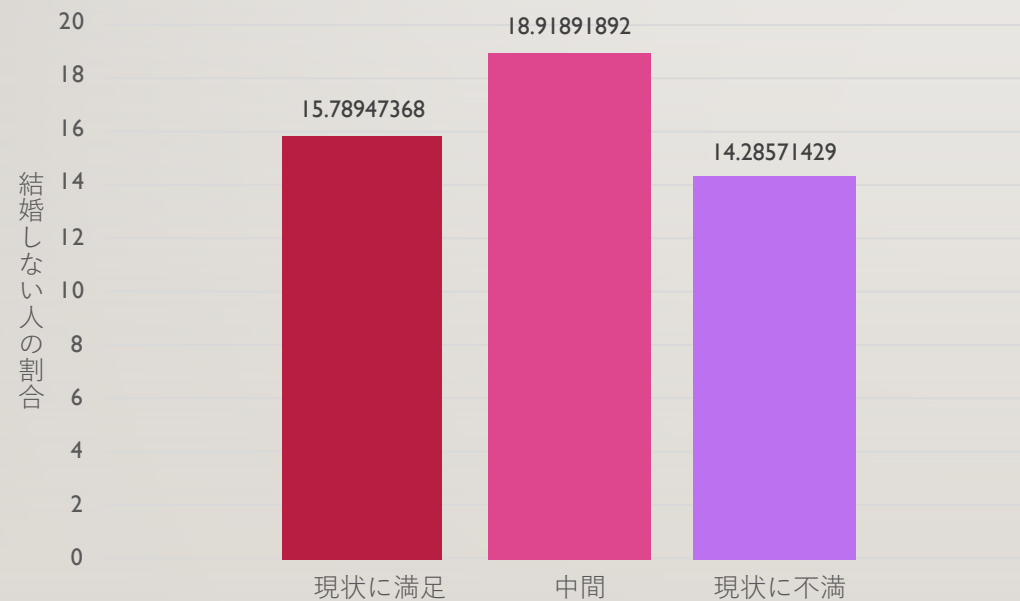
③損失回避性について ④結婚したい年齢or結婚したくない

アンケート結果 1

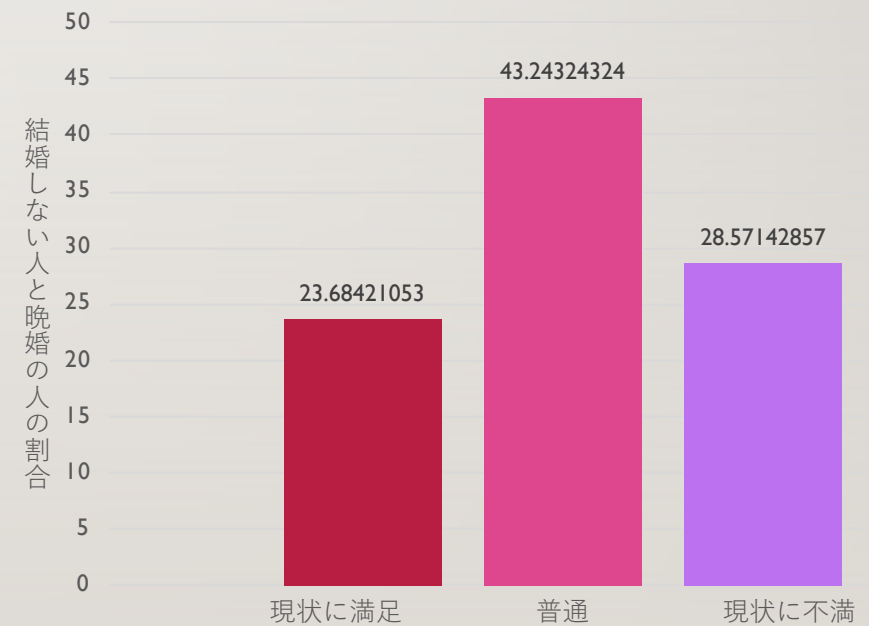
未婚晩婚の意志がある人と現状維持バイアスとの相関関係はない

- 現状維持バイアス

現状維持バイアスと結婚しない人の割合



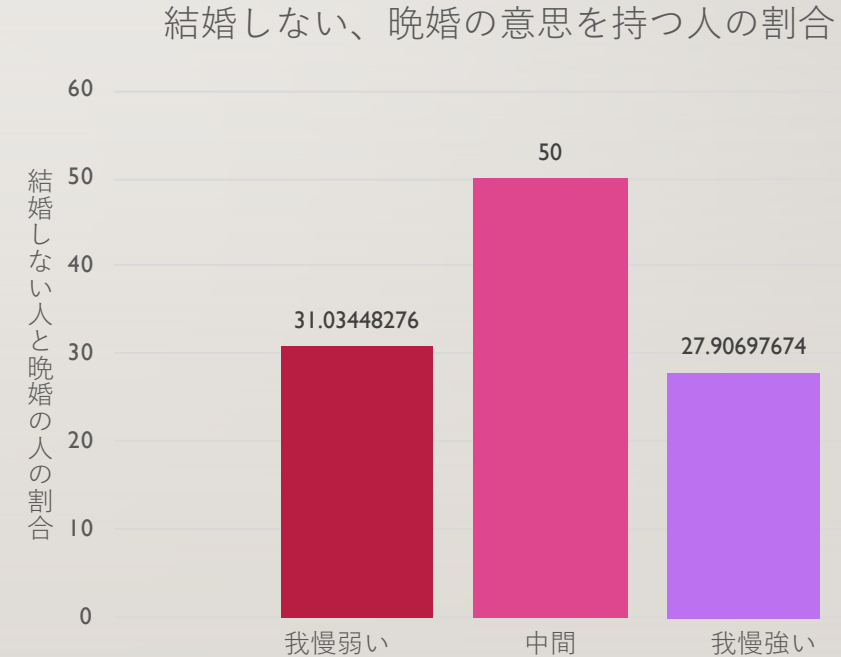
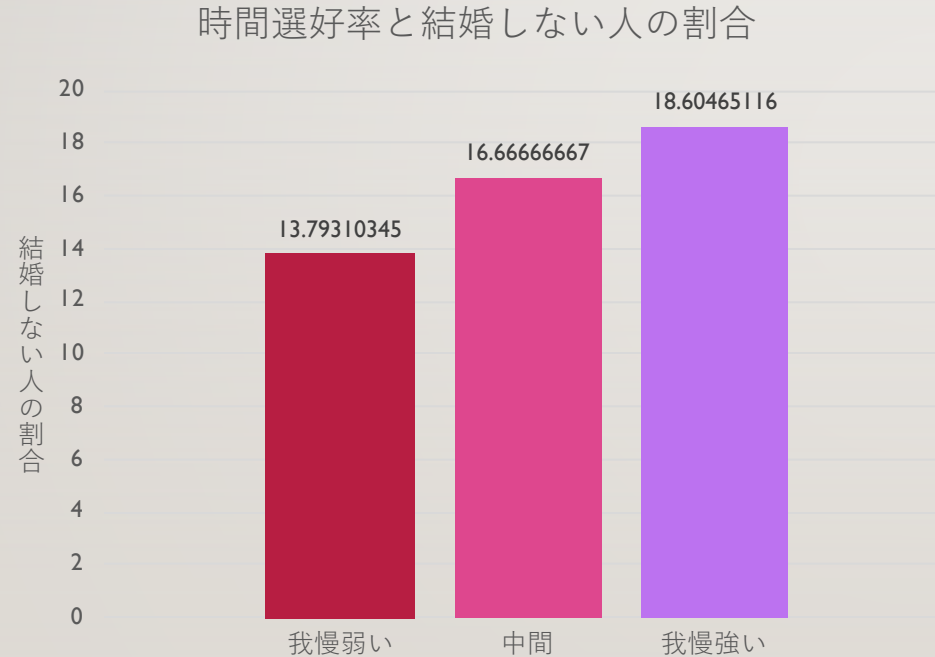
結婚しない、晩婚の意思を持つ人の割合



アンケート結果 2

未婚晩婚の意志がある人と時間選好率との相関関係はありとなしの両方存在する

- 時間選好率

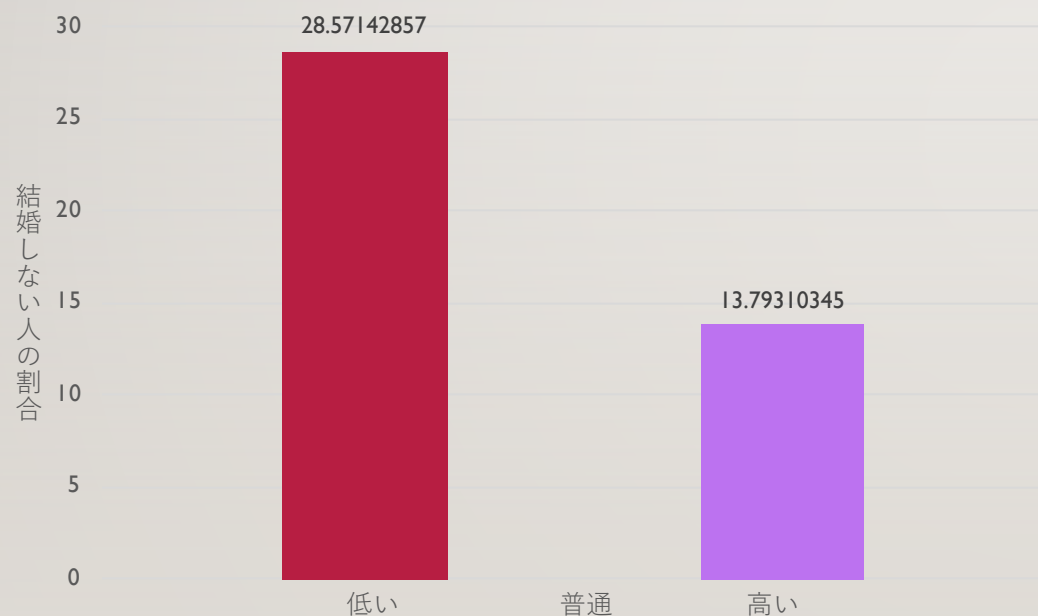


アンケート結果 3

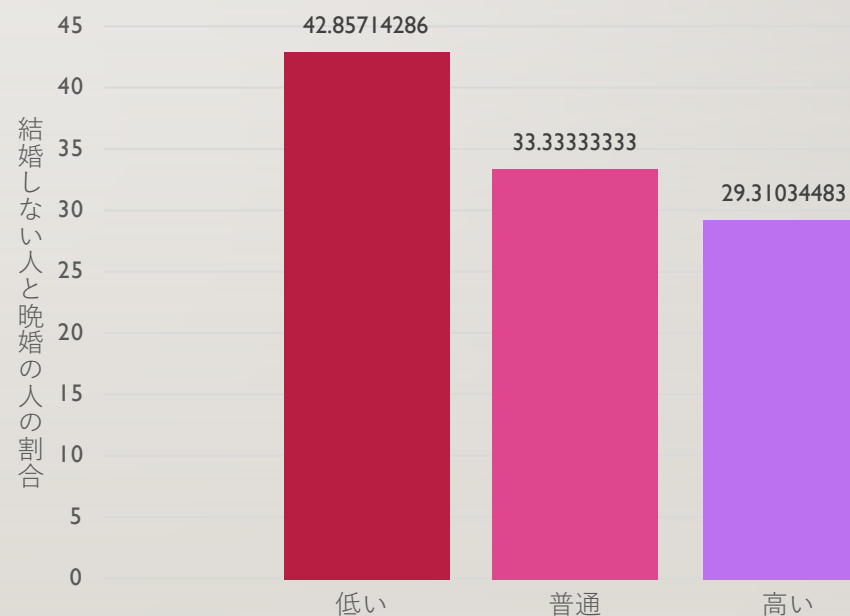
未婚晩婚の意志がある人と損失回避性との相関関係はあり

- 損失回避性

損失回避性と結婚しない人の割合



結婚しない、晩婚の意思を持つ人の割合



アンケートから得られる考察

- 「幸福度」との間には相関関係がない
→現状維持バイアスは結婚の意思とは
関係ない

アンケートから得られる考察

- 「時間選好率」が高いほど、結婚に対しても保身的になる。

→目先のことより遠い将来を

見据えている人は結婚願望が低い

アンケートから得られる考察

- 「損失回避性」が高い人の方が、未婚・晩婚の意志を持っている人が少ない
→結婚をすることでリスクを回避できると考えている人が多い

結論

未婚化・晩婚化を解決するには

- 我慢強い人→未婚・晩婚の志向
- 結婚をすること→リスクを回避できる
- そのため、ストレスフリーな環境作り、結婚することがリスク回避に繋がることを提唱する必要がある。